

第 61 回海岸工学講演会 企画セッション

ー 津波防災まちづくりにおける防潮堤の役割 ー

日 時: 平成 26 年 11 月 13 日(木) 14:40~17:30(予定)

会 場: 第 61 回海岸工学講演会会場(名古屋駅前「ウイंक愛知」)

土木学会海岸工学委員会では、第 61 回海岸工学講演会より、講演会での発表・討議のみを行う「ショートセッション」を設けました。そのうち、「企画セッション」は、事前に委員会がテーマを設定して募集を行ったショートセッションです。

2014 年企画セッションのテーマと概要

2011 年東北津波の教訓を受けて、二段階の津波規模の設定のもと、ハード対策とソフト対策を組み合わせながら津波対策を進めていくこととなりました。粘り強い海岸堤防構造の開発も進められていますが、いくつかの海岸では、これまでのものより高い堤防が土地利用やまちづくりとコンフリクトを起こす事例も報告されています。これは、ひとつに、津波危険地域での復興街づくりにおける防潮堤の役割や求められる機能について科学的な議論が尽くされていないためと考えられます。

そこで土木学会海岸工学委員会は、今回の企画セッションにおいて、海岸工学上の知見をベースに、津波防災街づくりにおける防潮堤の役割について、以下の視点から多角的・総合的な議論を行います。

- ◇ L1 津波高さの科学的な位置づけと適切さについて
- ◇ 防潮堤の高さ設定と防災街づくり、環境面への影響について
- ◇ 津波高さ設定と災害リスク変動、防潮堤の粘り強さについて

2014 年においては連続した 2 セッション枠を使用し、最初のセッション枠での各 10 分程度の講演発表の後、次のセッション枠にて、パネルディスカッション形式での 80 分程度の自由討論を予定しています。

発表者(所属)	講演題目
佐藤慎司(東大)	津波被害調査に基づく海岸堤防の減災機能と限界の解明
横山勝英(首都大)	気仙沼市舞根地区における復興の取り組みから見た津波防災のあり方
諏訪義雄(国総研)	減災に資する海岸堤防の点検・管理の提案
奥村与志弘(京大)	地域活性化と津波防災の両立を目指したまちづくり ～防潮堤を上回る高さの津波が想定されている福良の事例～
岡安章夫(海洋大)	住民の避難意識から考察した津波防潮堤の意味と高台移転
平野勝也(東北大)	宮城県の津波復興まちづくりと防潮堤事業のコンフリクトに関する一考察
清野聡子(九大)	津波防災まちづくりにおける科学技術コミュニケーションと合意形成の課題